

相模原市「地区別防災カルテ」をご活用ください!!

■防災カルテとは

みなさんが病気やけがで病院に行った場合、医師は診断をして治療を行うとともに、カルテ（診療記録）を作成します。カルテには、個人の属性（住所、氏名、年齢、性別等）に加えて、過去の病歴、症状、治療方法等が整理されており、カルテを見ることでその方の健康状態がわかります。

これに対して防災カルテとは、ある場所（地区）を対象に、その場所（地区）が災害に対してどのような状態にあるかを診断・整理した記録といえます。

相模原市の防災カルテの作成にあたっては、防災アセスメント調査並びに現地調査の結果をもとに、防災関連の各種情報を把握し、みなさんの自主防災活動に役立てていただくように表や図に整理しています。

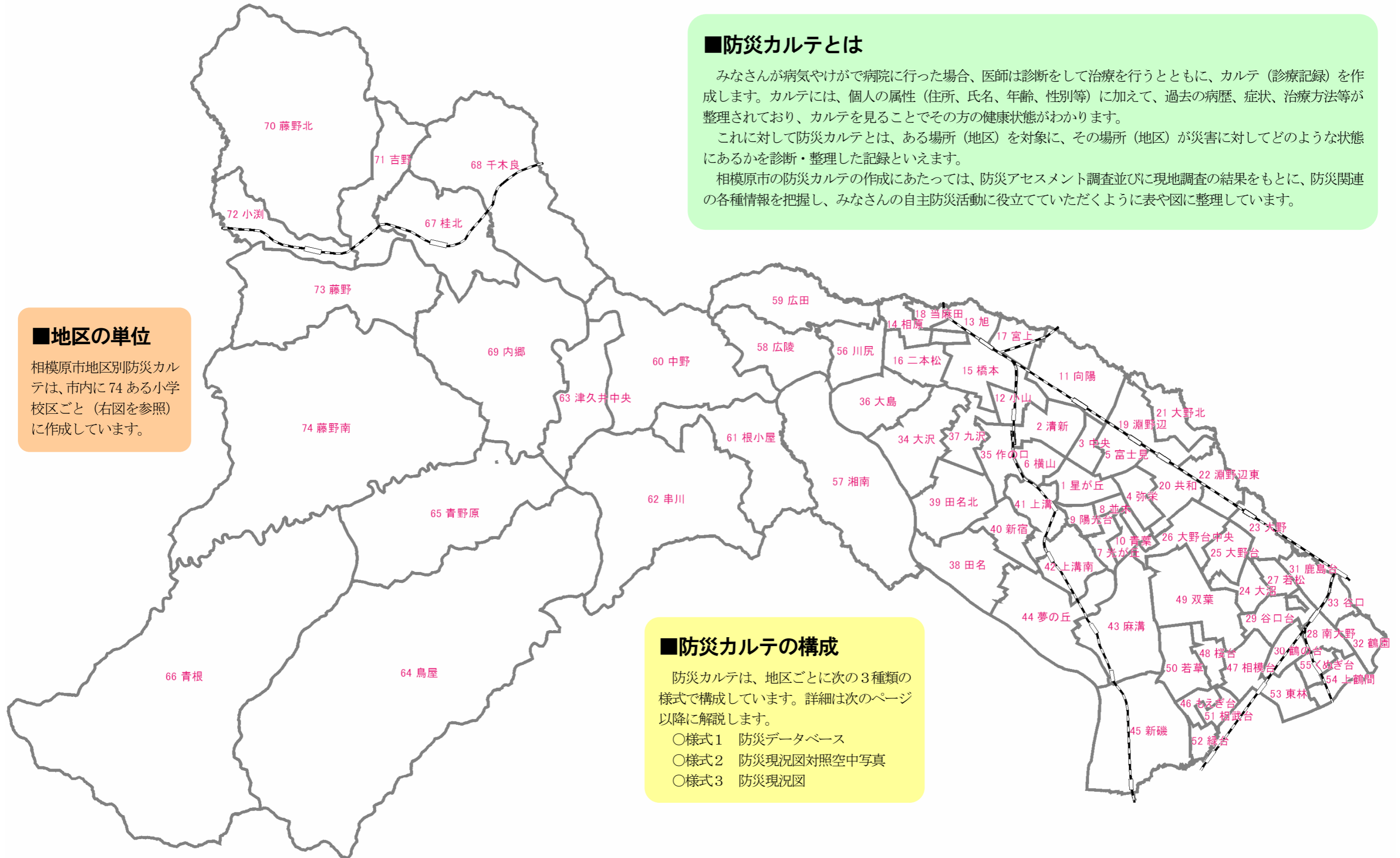
■地区の単位

相模原市地区別防災カルテは、市内に74ある小学校区ごと（右図を参照）に作成しています。

■防災カルテの構成

防災カルテは、地区ごとに次の3種類の様式で構成しています。詳細は次のページ以降に解説します。

- 様式1 防災データベース
- 様式2 防災現況図対照空中写真
- 様式3 防災現況図



■様式1 防災データベース

「様式1 防災データベース」の記載内容は次のとおりです。

項目	記載内容		
地区名	小学校区の名称です。		
地区を構成する町丁	地区内を構成する町丁の名称です。		
地区自治会連合会名（自治会名）	地区に該当する地区自治会連合会（自治会）の名称です。		
位置図	地区の範囲を、市域の全体図に対して着色しています。		
地区概況	地区内の地形、交通、土地利用等の状況を簡潔に示しています。		
建物数・人口	地区内の建物数、人口を表とグラフで示しています。 建物は、木造と非木造について、建築年代別に示しており、古い年代の建物はより地震に対して注意が必要といえます。 人口は、年齢層別に示しており、災害時に配慮が望まれる乳幼児と高齢者の方々の割合がわかるようにしています。		
所見	地区の防災上の現況、課題等を示しています。		
防災関連施設	地区内にある次の施設の名称です。 市役所、出張所、公民館、主な公共施設等、警察署、交番、駐在所、消防署、消防団詰所、病院等、主な災害時要援護者施設、幼稚園、保育園、学校、大学、避難所、広域避難場所、防災備蓄倉庫、臨時ヘリポート		
地震被害予測結果	後述の「■参考：平成18年度相模原市防災アセスメント調査による地震被害予測結果」に示す三つの大規模地震を想定した被害予測について、次の項目の被害量と比率を示しています。 ○全壊建物、焼失建物 ○死者、負傷者、（負傷者の）うち重症者、要救出者 ○り災者、避難所生活者		
災害危険度評価	地区の災害危険度を4段階で示しています。評価項目と内容は次のようになっています。		
	項目	評価指標	評価内容（該当が多いほど危険度が高い）
水害	水害地形	低地や台地上の浅い谷などがある。	
	浸水履歴	近年浸水被害が発生している。	
	浸水想定区域	浸水想定区域等がある。	
土砂災害	土砂災害地形	段丘崖、丘陵地などがある。	
	土砂災害履歴	近年土砂災害が発生している。	
	土砂災害危険箇所	急傾斜、土石流、地すべり等の危険箇所がある。	
地震による地盤災害	軟弱地盤	低地、高い盛土等がある。	
	ゆれやすい地形	ゆれが増幅しやすい低地等がある。	
	液状化しやすい地形	液状化しやすい低地等がある。	
地震による建物被害、火災	木造建築物の建築年代	昭和56年以前に建築された木造建築物が多い。	
	非木造建築の建築年代	昭和56年以前に建築された非木造建築物が多い。	
	火災の燃え広がりやすさ	燃え広がりやすい区域がまとまって分布する。	
近年の主な災害履歴	近年（平成元年以降に）発生した災害の発生日、被害の種類と箇所数を示しています。		

■様式2 防災現況図対照空中写真

地区全体の航空写真（平成19年1月撮影）です。

■様式3 防災現況図

次の情報を表示した地図です。なお、背景は次の地図を使用しています。

地域	背景地図（作成主体、作成年）
旧相模原市域	都市計画基本図DM（相模原市、平成15年度）
旧城山町域	都市計画基本図DM（城山町、平成16年度）
旧津久井町域	都市計画白図（津久井町、平成2年度）
旧相模湖町域	都市計画白図（相模湖町、平成7年度）
旧藤野町域	都市計画白図（藤野町、昭和61年度・平成2年度）

○防災関連施設等

凡例	項目	説明
	市役所、出張所	市役所、出張所、総合事務所です。
	公民館、主な公共施設等	公民館や主な社会教育施設等です。
	警察署、交番、駐在所	警察署、交番、駐在所です。
	消防署	消防署、分署です。
	消防団詰所	消防団の詰所です。
	病院等	病院、救急告示医療機関です。
	主な災害時要援護者施設	高齢者、障害者等の介助が必要な方が入所、通所する施設です。
	幼稚園、保育園	幼稚園、保育園です。
	学校、大学	小学校、中学校、高等学校、大学です。
	避難所	災害時に避難者を収容する施設です。
	広域避難場所	燃え広がる火災に対して避難する場所です。
	広域避難場所への車両進入可能箇所	広域避難場所内に車両が進入できる箇所です。
	救護所	大きな災害時に、救護所の開設を予定している施設です。
	防災備蓄倉庫	災害時に使う資機材、食料等を保管している倉庫です。
	ひばり放送塔	災害時に防災情報等を放送するスピーカーです。
	雨水調整池	豪雨時に、川があふれないように、雨水を一時貯留する施設です。
	臨時ヘリポート	重傷者や救援物資等を運ぶヘリコプターが離着陸する場所です。
	緊急輸送路	大きな災害時に、一般車両の通行を制限する道路です。
	小学校区境界	各小学校区の境界です。
	地区自治会連合会境界	地区自治会連合会の境界です。

○災害履歴

凡 例	項 目	補 足 説 明
●	浸水があったところ	近年浸水した記録があるところです。
●	土砂災害があったところ	近年土砂崩れ等が発生した記録があるところです。

○地形分類

凡 例	項 目	説 明
	山地・丘陵地	傾斜のある土地で、急なところや谷のところでは土砂災害に注意が必要です。
	低地	河川沿いの低い土地で、川の氾濫による浸水に注意が必要です。
	台地	低地より高いところにある平坦な土地で、比較的災害に強いです。
	台地上の浅い谷	台地上にある凹んだ土地で、浸水に注意が必要です。
	段丘崖	台地の端にある斜面で、急なところでは崖崩れに注意が必要です。
	山麓堆積地形・扇状地	川や山地から移動してきた土砂が堆まった土地で、土砂災害に注意が必要です。
	人工地形	盛土や切土した土地で、盛土の不同沈下、のり面の崩れに注意が必要です。

(注) 地形分類は、大まかに地図で判別されたものを拡大して表示しています。このため、地形の境界は、実際の位置とズレがある場合があります。

○災害危険箇所等

凡 例	項 目	説 明
	浸水想定区域	豪雨で相模川（小倉橋より下流）、鳩川、道保川、境川が氾濫した場合に、浸水するおそれがある場所です。
	土石流危険溪流	(土石流危険溪流に) 土石流が発生し、人家等に被害が発生するおそれがある場所（土石流危険区域）です。
	土石流危険区域	
	急傾斜地崩壊危険箇所	崖崩れが発生し、人家等に被害が発生するおそれがある場所です。
	地すべり危険箇所	地すべりが発生し、人家等に被害が発生するおそれがある場所です。
	山腹崩壊危険地区	山崩れが発生し、人家等に被害が発生するおそれがある場所です。
	崩壊土砂流出危険地区	山崩れ等で発生した土砂が土石流となって、人家等に被害が発生するおそれがある場所です。

(注) 土砂災害の危険箇所は、大まかな地図上で想定されたものを拡大して表示しています。このため、危険箇所の境界は、実際の位置とズレがある場合があります。

○図中のコメント

凡 例	補 足 説 明
	現地調査等で把握した災害要因、防災上の留意事項等について簡潔に記述した。

○書き込み欄

住民のみなさんが知っている防災情報を自由に書き込んでいただく欄です。以下の「■防災カルテをどのように活用するか」で併せてご説明します。

■防災カルテをどのように活用するか

防災カルテは、平常時の自主防災組織の活動等に役立てていただくことを主眼に作成しています。みなさんが住んでいる場所は、どんな災害に対してどこに危険性があるのか、また、避難所などの防災関連施設がどこにあるのかなどを、この防災カルテでチェックしていただくとともに、いざというときの対応を考える材料としてください。

また、この防災カルテを踏まえて、みなさんでより身近な防災の情報を調べて追加してみてください。特に、「様式3 防災現況図」では書き込み欄を作成していますので、これを活用してください。

- 浸水に注意が必要な場所をチェックしましょう。
 - 過去に浸水があったところ
 - ⇒表示された災害履歴のほか、実際に浸水した箇所があれば記入しましょう。
 - 台地上の浅い谷、低地
 - 浸水想定区域
- 土砂災害に注意が必要な場所をチェックしましょう。
 - 過去に土砂災害があったところ
 - ⇒表示された災害履歴のほか、実際に土砂災害が発生した箇所があれば記入しましょう。
 - 段丘崖、山地・丘陵地、山麓堆積地形・扇状地、人工地形
 - 急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険溪流、土石流危険区域、地すべり危険箇所、山腹崩壊危険地区、崩壊土砂流出危険地区
 - ⇒斜面の状況（湧水、亀裂等）等も記入し、災害の前兆に注意しましょう。
- そのほか災害に注意すべき場所や防災に役立つ情報を記入しましょう。
 - 倒壊、落下のおそれがあるところ
 - ⇒補強のないブロック塀、資材が高く野積みされているところなど
 - 避難所や広域避難場所までの移動経路
 - ⇒移動経路にある危険箇所、移動時間等を記入しましょう。
 - 身近にある防災施設（防火水槽）